

平成29年度国際交流基金文化協力主催事業「ボツワナ柔道専門家」

2018年3月16日
在ボツワナ日本大使館

2月26日から3月7日まで、日本政府は平成29年度国際交流基金文化協力主催事業として日本から2名の柔道専門家をボツワナ柔道連盟に派遣し、児童から社会人までの幅広い年代層に対して柔道の指導を行いました。須貝先生は、1985年及び1987年の世界柔道選手権大会95キロ級で優勝した他、1988年ソウル・オリンピックにも出場した著名な柔道家です。蹴揚先生は、モロッコ、チュニジア、エジプト、タンザニア、モザンビークなど、数多くの国で柔道を指導した経験があり、ボツワナでの指導は今回が2回目です。

本事業に伴いNPO法人柔道教育ソリダリティより、柔道着50着がボツワナ柔道連盟に寄贈されました。柔道着の引渡式と主な柔道の指導は「井坪先生記念道場」(Sensei Itsubo Memorial Dojo)で実施されました。この道場は、かつてボツワナで青年海外協力隊員として柔道指導に携わり不慮の事故でその命を落とした故井坪氏に敬意を表して命名され、我が国政府の支援に加え、国際柔道連盟、井坪氏ご遺族からの支援、並びにボツワナ国家スポーツ委員会からの土地提供を受け昨年完成したものです。須貝先生と蹴揚先生の指導を受け、寄贈された柔道着を身にまとい、この道場で研鑽を積んだボツワナ人柔道選手達の2020年東京五輪出場が期待されます。



NPO 法人柔道教育ソリダリティ
寄贈による柔道着の引渡式



竹田大使挨拶



モンワケツェ青少年地位向上・スポーツ文化
開発省副次官による御礼の言葉



蹴揚柔道専門家による
デモンストレーション



須貝柔道専門家による指導



子供達と触れ合う蹴揚柔道専門家



指導を受けるシニア柔道家



ボツアラナ小学校での記念撮影